

東海道編

朝日～来女

発行／(一社)四日市観光協会
〒510-0075
三重県四日市市安島一丁目1-56
TEL.059-357-0381
http://kanko-yokkaichi.com/
E-mail:kanko@m3.cty-net.ne.jp

2025年10月第11版発行



街道よもやま話
東海道は江戸日本橋から京都三条大橋間の約125里(約500km)。旅人は、朝4時頃に宿を立ち、夕方6時頃まで一日平均約10里、12～15日で歩いたという。

諏訪神社のすぐ先からアーケードのある商店街に入っていくが、これが、れっきとした東海道とは、こんな区間も珍しい。宿場の面影こそないが、今も街の中心街として栄えている。

街道は途切れ国道一号線と合流する。信号で反対側の歩道に渡っておこう。



⑥志氏神社
享保10年(1725)の鳥居や、文政元年(1818)・天保10年(1840)の常夜燈がある。この神社の狛犬(市指定文化財・S31.2)には、神様が留守を守るように言いつけたにもかかわらず、遊びに出かけてしまったためそれぞれ左右の前足を折られてしまったという伝説が残る。また、街道沿いの鳥居近くには、撫でると良縁が成就するという夫婦石がある。



④善教寺
善教寺には、二つの国指定重要文化財(S34.12)が奉安されている。阿弥陀如来立像は、鎌倉中期の作で、木造桧材寄木造りで、玉眼・漆箔を施した優美なもので、像高79cm。また、胎内納入文書とともに、胎内仏として約800体の摺仏が発見されている。



②長明寺
文治年間(1185～90)に蒔田相模守宗勝が居城した蒔田城跡といわれ、境内は素掘りの環濠に囲まれている。北側に隣接して観音堂があり、堂内の厨子には見事な龍の彫刻がみられる。桑名城より移築の山門、元文3年(1738)刺違切腹の薩摩義士の墓など。



「東海道五十三対 四日市」歌川豊国

朝明橋が出发点。高速道路の高架がよく見える。昔の道と現代の道のコントラストだ。

十四川の桜並木はシーズンにはとても美しい。春に歩くのはおすすめ!

この辺りは、お寺が多いと思いながら歩く。昔の人も道すがらいろいろな発見を楽しんだのではないだろうか。

東海道の木札を玄関や堀に掲げている家が多く、確かに東海道を歩いているのだと実感があつた。

この曲がり角は、見落とさないように。中町通りへと進む。

魚屋さんの調理する焼き魚の匂いがしてくる。旅人は、「焼蛤」を賞味したとか。復活させて欲しいな。



⑧手差し道標
本来は「江戸の辻」にあったものを、複製したもの。『すぐ江戸道』『すぐ京いせ道』と刻まれており、さらに丸の中に人差し指で方向を示す手が彫られているユニークな道標である。



⑦三滝橋
三滝橋を渡ると四日市宿に入る。安藤広重の描いた三重川は、この三滝橋あたりだといわれている。当時は、川遊びや夕涼みなどの憩いの場であった。



「東海道五拾三次 桑名・富田立場之図」歌川広重

なが餅
餅で餡をくるみ、薄く長くのばした独特の形。両面が軽く焼いてあり、焦げ目が香ばしい。江戸時代より、伊勢参りの土産物として知られていた。



③富田一里塚跡石標
お堂建設中、作業にあたった男達が力比べをしたと伝えられる石。重さは、32貫(120kg)もあり、肩まで持ち上げられる者はほとんどいなかったとか。



①宝性寺
本堂が市指定文化財(S52.10)。木造二重屋根御堂造瓦葺で、上棟木札によると、享保4年(1719)己亥6月建立。現在の本堂は、瓦の銘に文化11年(1814)とある。



「東海道五拾三次之内 四日市・三重川」歌川広重

